

令和4年度 滋賀県立リハビリテーションセンター研修一覧



詳細はこちら

専門研修(リハビリテーションに関わるすべての職種を対象とした研修)

研修名	主旨	研修テーマおよび講師	対象者	開催日時	申込締め切り	開催場所	定員
① 医師コース ※1、※2	生活への復帰や住み慣れた地域で住み続けられることを支援するのがリハビリテーションの働きです。子どもから高齢者まで疾病や障害をもつ人たちのQOLに資する在宅医療の提供に向けてチームとしての関わりは非常に重要です。また、リハビリ専門職の育成においても、医師のリハビリテーションへの理解は必要不可欠でもあり、本研修ではチームの専門的な知識・技術をマネージメントしながら患者・家族の生活を支えていく医師の役割について学ぶことを目的とします。	『生活の質を上げる在宅医療チームにおける医師のマネージメント』 ＜講師＞ 地域包括ケアセンターいぶき センター長 畑野 秀樹 氏	医師 〔医師以外の方も参加可能です。〕	令和5年 1月22日(日) 13:30～15:30 【受付:13:00～】	令和5年1月13日(金)まで ※先着順とさせていただきます。	Web会議システム (ZOOM)	20名
運動器・脊髄損傷コース ※1、※2	様々な加齢や疾病による身体機能の変化により、多くの方が車いすや歩行補助具を利用しており、それらの選定方法が対象者の身体構造やADL能力に影響を及ぼします。そのため、適切な機器利用のための視点や注意点、また、対象者に合わせた機器の選定・設定方法を知っておく必要があります。そこで、車いすや歩行補助具の利用目的や機器利用の事例をふまえて、生活現場で活用できる評価や設定方法を学び、本研修をリハ職に限らない多職種にとって実用的な内容とし、今後の適切な機器利用の促進を図ります。	『車いすや歩行補助具の適切な利用へ』 ＜講師＞ 「生活の中での視点～評価と使い方～」 社会福祉法人慈恵会 在宅サービス部 部長 岡本 理宏 氏 「在宅における福祉用具導入のポイント」 社会福祉法人慈恵会 ゆいの里 訪問看護ステーション 坂野 喜一 氏	車いす・歩行補助具の利用者の支援にかかわる全ての職種	令和4年 9月11日(日) 13:30～15:30 【受付:13:00～】	令和4年9月2日(金)まで ※先着順とさせていただきます。	Web会議システム (ZOOM)	50名
難病コース ※1、※2	パーキンソン病は難病の中でも有病率の高い疾患です。早期からリハビリテーションに取り組み、進行を緩やかにすることや、二次障害を防ぐことにより患者のQOLを高く維持することができます。患者の多くは地域で生活しており、患者が在宅療養で抱える課題や病気の進行に合わせたリハビリテーションの重要性を支援者が理解することで患者がより良い生活を送ることができることを目的に開催します。	『パーキンソン病に対するリハビリテーション』 ＜講師＞ 「在宅療養者への支援」 埼玉県総合リハビリテーションセンター センター長 (医師)市川 忠 氏 「早期かつ、進行に合わせたリハビリテーションの重要性」 湘南医療大学保健医療学部 リハビリテーション学科 教授 (理学療法士)大森 圭賢 氏	神経難病患者の支援に携わっている方々 ※医師、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、介護職、ケアマネジャー、計画相談員等 職種は問いません	令和4年 8月27日(土) 13:30～15:30 【受付:13:00～】	令和4年8月19日(金)まで ※先着順とさせていただきます。	Web会議システム (ZOOM)	50名
循環器コース ※2	日本は超高齢化社会を迎え、高齢者数増大による心疾患患者の急激な増加により「パンデミック」状態になると言われています。高齢者は、心臓だけでなく様々な疾患を抱えていることが多く、フレイル(虚弱)やサルコペニア(筋力低下)、認知症など急性期からの問題もふまえた、多職種での支援が必要になります。心疾患にはリハビリテーションと共に、生活期でいかに再入院までの期間を延長することが出来るかが重要です。多職種で重層的に心疾患患者の生活期を支える方法を学びます。	＜講師＞ 「心臓リハビリって何？」 滋賀医科大学リハビリテーション科 (医師) 川口 民郎 氏 「心臓病の方の生活期について」 滋賀医科大学医学部附属病院 リハビリテーション部 (理学療法士) 平岩 康之 氏 「心臓リハビリテーションの作業療法って何？～心臓に優しい生活について～」 JCHO滋賀病院 リハビリテーション部 (作業療法士) 今村 恵 氏 「心臓病患者の生活を支えるための療養支援」 滋賀県立総合病院 看護部(看護師) 村川 朋子 氏	心疾患・心機能低下を有する方の支援に携わる方々など	令和4年 9月3日(土) 13:00～15:30 【受付:12:30～】	令和4年8月31日(水)まで ※先着順とさせていただきます。	Web会議システム (ZOOM)	50名
コミュニケーション支援コース	障害を抱えていてもICT機器をうまく活用することで、今までの仕事を継続することができたり、日常生活の利便性を向上させることができる可能性があります。また、小児領域ではICT機器を介すことで子の反応を確認したり、発達を促すことに活用されている事例があります。研修では支援者がICT機器やコミュニケーション支援についての最新情報を知り、相談したい場合の相談先等、現場で活かせる知識の習得をめざします。	『障害児者のコミュニケーション支援の多様性について』 ＜講師＞ 「コミュニケーション支援とは？」 活動事例報告「成人領域での展開」 障害者ICTサポートセンター 松下 佑太 氏 活動事例報告「小児領域での展開」 オリブ訪問看護ステーション (理学療法士)高木 篤 氏 「ICT機器を活用することで広がった世界 ～今後の課題も含め～」 当事者の方	障害児・者を支援されている医療・介護・障害・学校・就労支援機関等の方 ※職種は問いません。	令和4年 11月5日(土) 13:30～15:30 【受付:13:00～】	令和4年10月28日(金)まで ※先着順とさせていただきます。	Web会議システム (ZOOM)	50名
② テーマ別コース 高次脳機能障害コース ＜STEP 1＞ ※2	高次脳機能障害については、症状が外見からわかりにくく、また本人に自覚がないことも多いため「見えない障害」と言われることもあります。そのため支援者や周囲の方にもこの障害に対する理解が必要です。高次脳機能障害の支援において、適切な知識をもって関わるのが、高次脳機能障害の方の社会適応を高めるという報告もあり、今回の研修では、「高次脳機能障害ってよくわからない。」「高次脳機能障害について理解したい。」といった支援者に対して、基礎理解を高める事を目的とします。(当研修の「高次脳機能障害の基礎理解」は2021年度に当センターが実施した高次脳機能障害コースSTEP1とほぼ同一の内容です。)	『高次脳機能障害の基礎理解』 ＜講師＞ 「高次脳機能障害の基礎理解」 滋賀県立リハビリテーションセンター 所長 川上 寿一 「社会的行動障害の基礎理解とその対応」 滋賀県高次脳機能障害支援センター 認定心理士 小西川 梨紗 氏		令和4年 8月28日(日) 13:30～16:30 【受付:13:00～】	令和4年8月19日(金)まで ※先着順とさせていただきます。	Web会議システム (ZOOM)	30名
高次脳機能障害コース ＜STEP 2A＞ ※2	高次脳機能障害については、症状が外見からわかりにくく、また本人に自覚がないことも多いため「見えない障害」と言われることもあります。そのため支援者や周囲の方にもこの障害に対する理解が必要です。注意・記憶・実行機能・社会的行動障害は、行政的な定義において高次脳機能障害として挙げられます。このような症状を持つ方々に対し、生活場での支援に関わる方を対象に、動画等を用いながら、それらの障害特性に対する理解を深めると共に、実際の関わり方が具体化できるように動画やアセスメントツールを用いながら理解を深めます。(当研修は、2020年度に実施した高次脳機能障害コースSTEP2Aと同一の内容です。)	『生活における高次脳機能障害の捉え方や対応法』 ＜講師＞ 滋賀県立リハビリテーションセンター 所長 川上 寿一		令和4年 10月16日(日) 9:30～12:30 【受付:9:00～】			20名
高次脳機能障害コース ＜STEP 3＞ ※2	高次脳機能障害のある方の地域社会生活を支える際に様々な方と関わる必要があります。その際、支援機関の役割を知っている事は支援される方のこれからを左右する可能性があります。そこで、地域で中心となって支援している様々な方々に支援機関の役割や実際を講演いただき、今後の支援に活かしていくことを目的とします。	『生活を支える社会資源 ～知る事が大きな差を生む～』 ＜講師＞ 「滋賀県における高次脳機能障害の現状と滋賀県高次脳機能障害支援センターの支援」 滋賀県高次脳機能障害支援センター 相談支援員 田邊 陽子 氏 (仮)「市立野洲病院回復期病棟での取り組み」 市立野洲病院 リハビリテーション課 作業療法士 岡本 裕一 氏 「むれやま荘の機能と役割 ～高次脳機能障害への支援～」 滋賀県立むれやま荘 所長 柴田 有加里 氏 「滋賀障害者職業センターにおける高次脳機能障害者への支援について」 滋賀障害者職業センター 主任障害者職業カウンセラー 山口 久尚 氏 (仮)「高次脳機能障害者の会」の会しごと 高次脳機能障害者の会が 代表 岡本 律子 氏 「働き・暮らし応援センターにおける高次脳機能障害者の支援状況について」 湖南圏域働き・暮らし応援センター センター長 相馬 佐保 氏	医師、看護師、保健師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、介護福祉士、介護士、ケアマネジャー、ソーシャルワーカー、相談支援事業所職員、就労支援機関職員等	令和4年 10月16日(日) 13:30～16:50 【受付:13:00～】	令和4年10月7日(金)まで ※先着順とさせていただきます。	Web会議システム (ZOOM)	30名
高次脳機能障害コース ＜医師・リハセラピスト研修＞ ※1、※2	脳損傷・脳疾患に対してのリハビリテーションプログラムの精度は、脳画像の判読を症状とあわせて評価することで上がります。この研修では、脳画像を判読し考えられる症状の推論と高次脳機能障害の方を支援する効果的な思考プロセスを学びます。また、事例を通したワークショップで講義の学びをアウトプットし、明日から臨床に活かせることを目的とします。	『脳機能障害(高次脳機能障害・発達障害など)に対するリハビリテーション・学習・就労等に向けたプロセス』 ＜講師＞ (仮)「画像診断と高次脳機能障害(超基礎編)」 京都大学大学院医学研究科 精神医学教室 教授 村井 俊哉 氏 (仮)「高次脳機能障害と効果的な学習について～リハビリテーション立案・実施と推論～」 藍野大学医療保健学部 作業療法学科 学科長 教授 酒井 浩 氏 ワークショップ 「事例から脳画像の判読、診断、評価、リハビリテーションプログラムの立案と高次脳機能障害の現象について」		令和5年 2月5日(日) 13:00～17:00 【受付:12:30～】	令和5年1月27日(金)まで ※先着順とさせていただきます。	Web会議システム (ZOOM)	20名
摂食嚥下コース	【調理実習】高齢者にとって肺炎が死につながるケースが多いです。今回、摂食嚥下機能が低下し、日々の食事場面でむせや誤嚥を繰り返している利用者への食事形態について、実習を通して食べ物を飲み込みやすくする調理の工夫や個人のスキルアップを図ることを目的とします。 【動画配信】YouTube 滋賀県立リハビリテーションセンターチャンネルにて「京滋摂食嚥下を考える会」と協力して作成した動画を掲載しています。施設・事業所等での研修会や個人のスキルUPのためにご視聴ください。	【調理実習】 「食べ物を飲み込みやすくする工夫」 大阪府障障学短期大学 准教授 高嶋 典子 氏 【動画】 「口腔ケアと歯科治療」 光吉歯科医院 院長 光吉 平 氏 「口腔ケアの手順」 光吉歯科医院 訪問歯科衛生士 村西 加寿美 氏 「食べ物を飲み込みやすくする工夫」 大阪府障障学短期大学 准教授 高嶋 典子 氏	医療・保険・介護・福祉・行政などに携わる方、摂食嚥下障害の方を支援されている方、関心のある方	【調理実習】令和4年 10月29日(土) 14:00～16:30 【受付:13:30～】 【動画】随時、当センターチャンネル(YouTube)にて配信	【調理実習】 (受付開始) 令和4年8月15日(月)より下記URLまたはQRコードから受付フォームにアクセスし、必要事項の入力をお願いします。 【先着順】	【調理実習】 守山市 すこやかセンター 栄養指導室 【動画】県立リハビリテーションセンターチャンネル(YouTube) 【動画】なし	20名

(お問い合わせ) 滋賀県立リハビリテーションセンター 電話: 077-582-8157 FAX: 077-582-5726 E-Mail: eg3001@pref.shiga.lg.jp HP: http://www.pref.shiga.lg.jp/rehabili/

※1: 日本医師会生涯教育制度単位申請予定 ※2: 日本作業療法士協会生涯教育制度基礎コースポイント申請予定

● お申し込みは、滋賀県立リハビリテーションセンターホームページ、または研修会案内冊子のURL,QRコードからお申し込みください。(参加は無料。但し資料代、材料費はご負担いただく場合がございます。)

